

自己実現への道

第107回 ー 第8章 「信念さえあれば必ず道は開ける」(その11)

★ 人間は戦うために生まれてきた

なぜ人生には苦しいことが多いのだろうか？ 神様は私達を愛して下さるというのなら、何故煩わしいことばこんなに多いのだろうか？ 神は優しいお方だというのなら、なぜ人生の道はこんなに険しいのだろうか？

人間が進む道は、見えざる力によって最もよい形になるようにデザインされているのであるということをまず銘記しておくことが大切である。

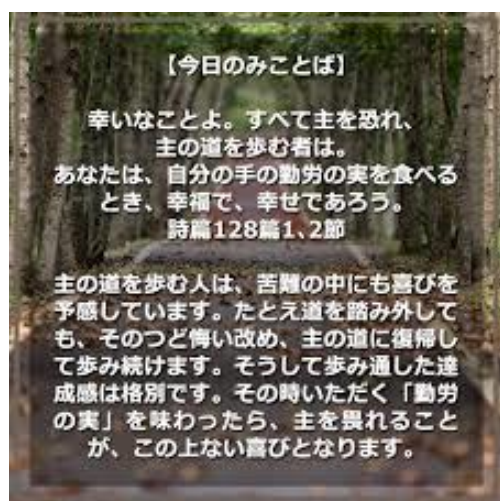
私たちがこの世に招かれたのは、神の軍隊の兵士になるためであって、世界一周旅行の観光客になるためではない

シュラー牧師の話。「もう数十年も前のことだが、弟は、第二次世界大戦中、アメリカ群の衛生看護兵として従軍し、ヨーロッパで働いていた。前線に駆けつけ、負傷者や瀕死の病院を車に収容し、救急処置のため、誤送するのが彼の任務であった。そうである。私の弟は兵士としてヨーロッパに行き、私は観光客として旅をしていたわけである」

「しかし、人間はキリストをガイドとする豪華な世界旅行に招かれることはないのだ。そうでは

なく、本来、私たちは、栄光と人類の幸福のために敵を打ち倒し、国土を解放するための激戦に、神の兵士として参加する任務を課せられているのである」私達は戦うために生まれてきたのである。苦難の日が巡ってくるのは当然である。だから、救いの兜をかぶり、信念の盾を取り、勇気の剣を帯び、正義の胸当てを付けて、戦いに備えなければならない。

仏教に「人生皆苦」という言葉がある。人生には多くの苦難があるが、突破しえないような難関はない。そのことがわかれば（真に悟れば）、もう怖がることはない。そして私たちは自分の運命を開拓するために、また世の中をよくするために、絶えず戦うべきなのである。



<MIKO>

参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より